

子どもの喜ぶ造形遊び(2)

—いくつかの新提案—

木俣 創志

1. はじめに (註1)

エアブラシを楽しむイベントには、実施する側がどうしても億劫になってしまういくつかの要素があります。ところが、「エアブラシは絵の具やインクで…」といった先入観・常識を捨てて、代わりに「水」を使い「水書板」に吹けば、気軽にエアブラシ遊びが出来ることを発見しました。(註2)

絵の具も紙も不要、(コロナ禍でなければ)マスクの着用や部屋の換気も不要、時間を要するハンドピースの洗浄をはじめとする(造形遊び・描画活動につきものの)後片付けも不要、また、絵の具の噴霧による住環境の汚れを気にする必要もないなど、多くのメリットがあります。さらに、絵の具を使わないのでハンドピースの劣化もなく、絵の具の汚れでハンドピースを詰まらせるなどのトラブルもないため、子どもたちに精度の高い(高価な)ハンドピースを使用させることも可能です。

私が実際にエアブラシを始めたのは大学卒業後だったのですが、子どもの頃から高精度のエアブラシに“遊び”として親しんでおけば、もしかしたら、将来とても微妙な表現も出来る「手」に仕上がるかもしれません。また、画家やデザイナーなどの造形のプロや美術の学生が、初めてエアブラシを握る際のトレーニングとしても展開が期待できそうです。

尚、本稿は「たいけん美じゅつ場VIVA」(2022年3月13日、茨城)において、そして「北川村 モネの庭 マルモッタ」(2022年7月17日、高知)において実施した、2つの同内容のワークショップを踏まえています。

2. 「水」で本格エアブラシ遊び!

【年齢】3歳～

ワークショップ会場で実際にエアブラシ体験をした人は、以下の通りです。(註3)

●たいけん美じゅつ場「VIVA」…4歳くらい～大人の方々、約1時間で20名ほどの不特定多数の親子、個人 ●北川村「モネの庭」マルモッタ…5歳くらい～大人の方々、約2時間で15名ほどの不特定多数の親子、個人



会場のインディケーション

たいけん美じゅつ場「V I V A」ワークショップ会場
(©2022 古田七海)

【季節】 通年

【用意するもの】

水、スポイトボトルなどの容器、エアブラシ(ハンドピース)、イーゼル、エアブラシ用ホース、コンプレッサー、エアブラシスタンド、水書板、水書用紙を張り付けたミラーボード、ドライヤー、サーキュレーター



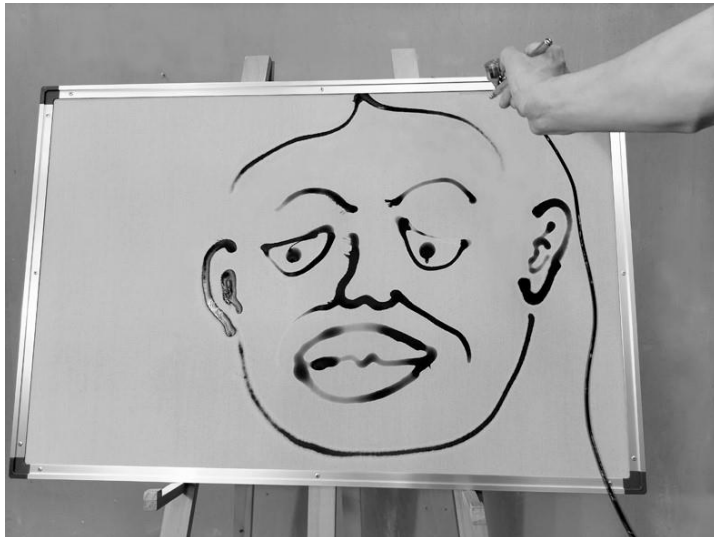
用意するもの



エアブラシのカップに水を注ぐ

【遊び方など】

エアブラシのカップにスポイトボトルで水を注ぎ、早速「水書板」に向かって、さあ、エアブラシ体験！ …なのですが、実際に子どもにハンドピースを握らせる前に、



まずは大人が楽しくラクガキしてデモを行なう



大人(出来ればエアブラシに慣れた人)が楽しそうにラクガキするのを見せると効果的です。十分にデモを行なえば「自分もやりたい！」気持ちが蓄積され、元気で勢いのある子どもの描画を期待出来るからです。

“大人のラクガキ”が済んだら、エアブラシを体験する子どもの背の高さに合わせて水書板をイーゼルにセットします。このとき、子どものワクワク、ドキドキが高まります。

ハンドピースを子どもに握ってもらうとき、ひとり一人の年齢やスキルに合わせた丁寧で実的な説明が必要です。私が使用したオリンポス製のダブルアクション・タイプは、人差し指でも親指でもボタン(メインレバー)をプッシュ出来るので、2通りの握り方のうち、どちらかで水を吹くよう手本を示したうえで、子どもに描画を楽しんでもらいました。

使用した水書板(「書道用両面水書板」大阪教材)は両面使用が可能なので、子ども



人差し指シフト



親指シフト



水書板を乾燥させているところ

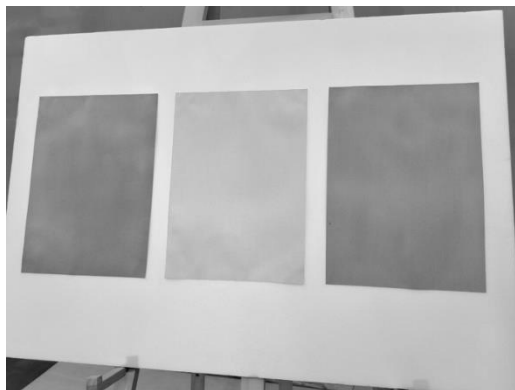


下から裏面に風を当ててもOK

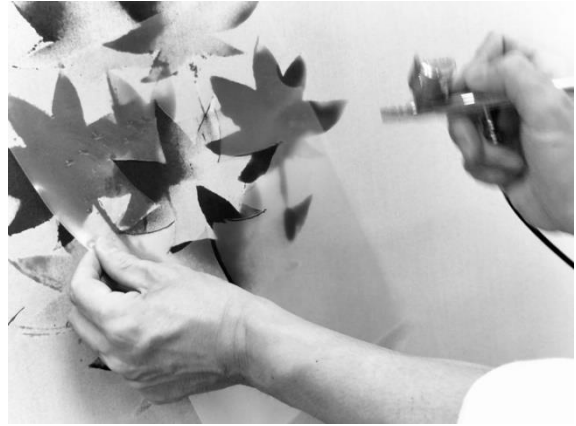
が描画する際は、大人が見本としてデモをした面を裏返し、新しい(まっさらな)面を子どもに使わせるようにしました。(濃いグレー色で描画される先述の)水書板が両面ともエアブラシの絵ですき間がなくなってきたら、スペアの新しい水書板をセットします。ミラーボードに貼り付けた、複数の色のある水書用紙(「水書用紙・水でお習字」呉竹)でもいいですね。すると、間髪おかずに子どものエアブラシ描画をリスタートできます。

その間に、使用済みの水書板をサーキュレーターやドライヤーで乾燥させます。水が乾燥すれば、まっさらな状態に戻り再び何度でも描くことが出来ます。火傷の心配のない年齢の子どもにドライヤーでの乾燥を依頼すれば、喜んで乾燥に精を出してくれます。

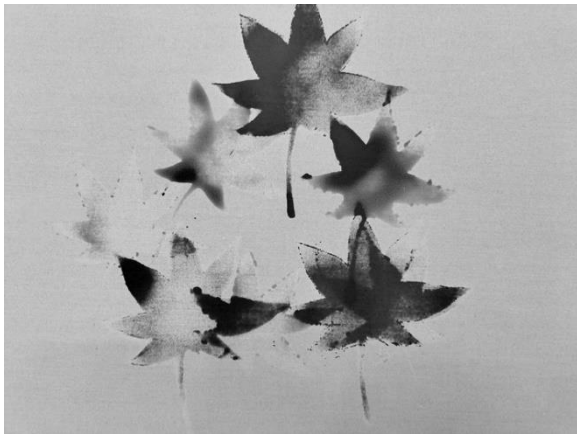
以上はワークショップ実施のほんの一例にすぎませんが、この様にして、(グレー描画の)水書板と(カラフルな複数の)水書用紙とを交互に乾燥させながら使用すれば、途切れることなくエアブラシをフル稼働させることが出来、乾燥時間のために子どもたちを待たせるということがありません。



色が楽しめる「水書用紙」をミラーボードに貼り付ければ「カラー水書板」になる



型紙を使ったステンシル遊び



もみじのステンシル作品の出来上がり！



型紙の水分は使用ごとに拭き取る

【展開のヒント】

「素晴らしい！」と思う作品は、撮影しておいてもいいでしょう。実際、親子で楽しんだあとに、子どもと作品をスマホで撮影する親御さんも多く見受けられました。

モミジやイチョウの葉、昆虫など、一定のかたちで切り抜いた薄い透明のポリプロピレン板などを、ステンシル用の型紙として楽しむこともできます。市販のクリア・ファイルなどを1枚にカットしてつくります。ステンシルを楽しむ時の注意点は、型紙の板を使う度に、付着した水分を吸水クロスなどで丁寧に拭き取っておくことです。型紙の板に水分が残ってしまうと、水書板や水書用紙に水によるシミが出来てしまうからです。

子どもは大人よりも、ときに意外性のあるエアブラシの使い方をします。例えば、ダブルアクションのハンドピースは、カップに水がセットされたままでもボタンのプッシュの仕方によって“空気のみ噴出”させることができます。それに気づいた子どものひとりが、自分で描いた水書板の絵の一部分に空気のみ吹きかけ、エアブラシが(冷風の)ドライヤーとなって乾燥を促しレイサーに早変わり、という場面もありま

した。子どもの発想の柔らかさを垣間見た瞬間です。

ハンドピースに慣れた大人が描画すると、エアブラシならではのデリケートなハーフトーンの表現に没入することが多く、少量の水しか使わないため、結果としてカップ内の水がすぐに空になることは殆どありません。ところが子どもは、ハンドピースから水が勢いよく出ること自体に喜びを感じるせいか、一たび描画が始まると、たちまち水がなくなることが多いので、ハンドピースのカップが小ぶりの場合は、頻繁にカップに水を注入しましょう。

不特定多数の親子などを対象とする場合は、水書板を設置するスタンドとして、高さの調整が素早くラクに行なえるイーゼルを用意します。子どもや大人の背丈の違いに合わせた、目まぐるしい変化にも対応可能です。実際に使用したのはペグを差し込むタイプでしたが、手締め式、スライド式のH型イーゼルなどでもよいでしょう。

水書板ならではの、乾燥とともに絵がしだいに消えてゆく様子は、絵柄によって大変微妙な不思議さを醸し出すことがあります。そうした「水と水書板」がつくる物理的な面白さ、“美のはかなさ”のような感覚を、子どもがゆとりを持って体験できるようにしたいですね。

【会場の設営で大切にしたこと】

ワークショップを実施した当日は、ギャラリー・ブースのようなスペースを設営し、私自身がエアブラシで制作した作品、そして、VIVAでは子どもたちの(アクリル絵の具による)エアブラシ作品もそれぞれ数点展示し、作品たちに囲まれるかたちでエアブラシ体験をしました。こうした会場づくりは、ワークショップを依頼された当初から私の念頭にあったもので、エアブラシの可能性について作品を通して端的に示唆し、また、作品による会場のムードメイキング、イメージメイキングを狙いと



ペグを差し込むタイプのイーゼル(部分)



エアブラシ作品による会場づくり

したものでした。

エアブラシを初めて手にする子どもや大人が、このツールによってどのような作品を制作することが出来るのか、担当アーティストがどのような仕事をし、このツールを役立てているか、また、参加者がひと時でもアーティストに成りきってエアブラシ描画を楽しんでもらうべく疑似アトリエ空間を演出したい…など、これら諸々の想いを子どもの作品や自身の作品を通じて伝え実現する、シンプルかつベストな媒体となったように思います。

3. むすびに

そもそも子どもは、絵の具を水しぶき状にして吹きかける技法、スパッタリング(註4)が大好きです。幼稚園や保育園、小中学校などで実際に行なったという経験者も多く、つまり、スパッタリングは子どもたちが喜んで行なう代表的なモダンテクニック・造形遊びのひとつとして既に定着しています。そして、エアブラシの技法はスパッタリングの一種と見做すことも出来、したがって、子どもがハンドピースを使いこなせさえすれば、このツールに夢中になることはほぼ確実だったと言えましょう。

実際、ワークショップ会場では「もう終わり！」を告げない限り、殆どの子どもは水書板を前にして、いつまでも夢中でエアブラシを続けていたことは、強調してよい点です。

では、子どものスパッタリング遊びに、これまでエアブラシが取り上げられてこなかったのはなぜでしょうか。次のような理由が考えられます。

エアブラシの使用には高度のテクニックが不可欠と考えられてきたこと、ハンドピ



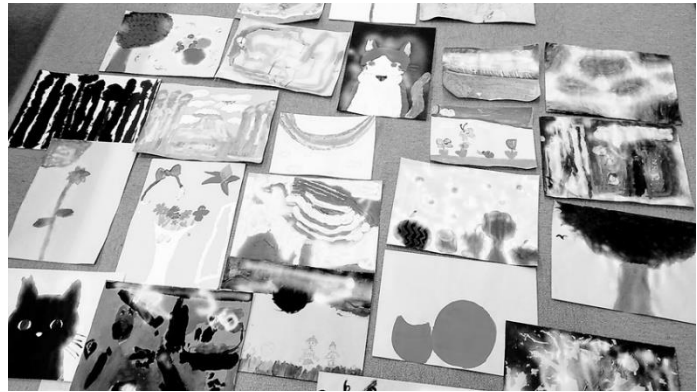
エアブラシを楽しむ子どもたちは、たくさんの水を使うのが大好き
「もう終わり！」を告げない限り、いつまでも夢中で続ける

ース自体が精密で高価な描画ツールであり、粗雑な扱いにより直ちにその劣化が予想されること、またその使用にはマスクの着用が求められ、加えて使用後の洗浄には細かな注意と手間、時間を要すること、などです。

が、この点、ハンドピースに詰める描画材料が「水」になることによって、子どもがエアブラシを使用する際に危惧される上記のハードルは全てなくなったと言えます。



絵の具によるエアブラッシング



ペインティングとエアブラシによる子どもたちの作品

さてここで、水書板の使用に至る前段として、(従来通りの方法での)エアブラシ描画をワークショップで実施したことを述べない訳にはいきません。

きっかけは、常にマスクの着用と部屋の換気が求められているコロナ禍だからこそ、という発想からでした。この物理的な環境は、まさしくエアブラシを子どもたちに体験してもらう条件を満たしていたからです。子どもをとり巻くストレスフルな環境の渦中、この状況を逆に利用することはできないか、と考えたひとつの結論でもありました。

とはいえ、私の専門であるエアブラシ描画をワークショップで実施することは、かねてから私の夢でもあり続けたことは確かで、今般のコロナ禍が奇しくもその好機となったことは間違いありません。またその動機には、アトリエでマスクをしていることさえ忘れてエアブラシに没入していた自身の経験もありました。

折しも2020～22年の計17日間、小学生対象の「放課後アートの時間」(註5)のワークショップを企画・実施する機会に恵まれ、期間中の4日間を使い早速このアイデアを実現し、子どもたちに1人ずつエアブラシを体験してもらいました。(詳述は機会をあらためます。)すると、彼らは意外なほどエアブラシに夢中になり、「子どもにハンドピースが扱えるだろうか…」という当初の不安を裏切る嬉しい結果となったのです。

こうして「放課後アートの時間」でエアブラシ体験の一定の成功が認められた結果、私の関心は、もっと“気軽に”ハンドピースによるスパッタリング遊びができないかということになりました。そこで思いついたのが、書道のお手本書きのために水を浸した毛筆で書く「水書板」です。水のみで字を書き、水の乾燥とともに書が消え、墨汁も半紙も不要の優れものです。

振り返れば、V I V Aでのワークショップは、(子どもに感染しやすいとされた)コロナ第6波によって放課後クラブでのワークショップが中断を余儀なくされたために企画されたものです。実施時は第6波の余波が残り、予断を許さない状況でした。そもそもワークショップは人が集まることが前提です。密を避けるべく企画するのは、“難しいパズル”に取り組む面白さもありましたが、この点、本ワークショップは、1人の子どもか大人(もしくは1組の親子)のみが順番に参加するという設定だったために、コロナ禍であっても密を避けることが出来るので安心して取り組みました。

ここで紹介した造形遊びは、コンプレッサーのスイッチをオンにするのみで、あるいはエアボンベに繋いだハンドピースを握るだけで基本的には準備完了、後片付けも不要です。

普及にはもう少し時間が必要かもしれませんが、学校の図工室や美術室は勿論、幼稚園や保育園でも先生方の負担がなく、気軽にエアブラシ描画を楽しめるのではないかと期待しています。

尚、「子どもの喜ぶ造形遊び—いくつかの新提案—」シリーズの研究には、継続的に個人のご支援をいただいています。強く匿名を希望されていますので名前の公表は控えますが、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

註

- 1) 「子どもの喜ぶ造形遊び—いくつかの新提案—」シリーズ全体の序文は、拙論「子どもの喜ぶ造形遊び(1)—いくつかの新提案—」(『美』212号、京都市立芸術大学 美術教育研究会、2020年、p. 32)の「1. はじめに」を参照してください。
- 2) 水書板については、本稿「3. むすびに」を参照してください。
- 3) 両ワークショップの参加人数に差が生じたのは、「モネの庭」が有料参加だったことも一因と考えられます。
- 4) スパッタリングは、私も含め、多くの作家たちがこの技法を駆使して絵画制作などを行っています。また大学での授業中、私もそのいくつかの表現技法を実演しています。その方法は多岐にわたり、

例えば歯ブラシと網を使用する、2～3本の筆をノッキングさせる、絵の具を浸した筆の穂先を指などで弾く、(アメリカで開発された)スパッターブラシを使用する…など等、その他さまざまなやり方によって実施されます。

- 5) 「放課後アートの時間」は取手市(茨城県)による独自の事業であり、その運営をNPO法人 取手アートプロジェクトオフィス(TAP)に委託しています。

芸術家と放課後子どもクラブに居合わせる子どもたち、放課後子どもクラブの運営を支える人々が関係性を築き、個々の視点や専門性を活かしたプログラムを数日間にわたって実施します。新型コロナウイルス感染拡大により、発表の機会等が減少し活動が制限され経済的な影響を受けている芸術家の支援、および、学内外の生活においてさまざまな環境の変化に直面している子どもたちの日常を芸術活動を通して少しでも豊かなものにするを目的に、2020年度(令和2年度)にスタートし2022年度(令和4年度)で3回目を迎えました。

アートの多様な視点や価値観をともに体験することで、子どもたちのコミュニケーション能力が育まれると同時に芸術家の新たな実践・研鑽の場となること、他者との関わり合いを通じて、社会とつながるきっかけを得ることを目指しています。

尚、この註は、取手アートプロジェクトHP「取手市内公立小学校放課後子どもクラブ芸術家パートナーシップ事業 令和2年度実施レポート」<https://toride-ap.gr.jp/baseprogram/intermediary/?p=7703> を参照しました。(2022年9月6日)

協力：取手アートプロジェクト(TAP)

北川村「モネの庭」マルモッタン



画家
美術研究家
静岡英和学院大学 昭和女子大学
東京保育専門学校
非常勤講師(美術・造形)

北川村「モネの庭」マルモッタン
ワークショップ会場